

# 千葉テレビ放送

## 事業の名称

チバテレ ミライチャンネルプロジェクト

## 共同で事業を実施した団体

ちばテレビメディアネット（映像制作・イベント等プロデュース、ディレクター業務）

## 事業概要

### 【実施内容】

コロナ禍により学校へ通えない子どもたちのために、千葉テレビ放送（以下、チバテレ）では第2チャンネル（サブチャンネル）を活用し、学習支援番組を放送した（2020年5月の2週間、平日に4時間半）。2021年5月、チバテレの開局50周年を機に「チバテレ ミライチャンネル」と名づけ、「子どもたちとともに作るチャンネル」として教育・教養番組のほか、青少年が制作した番組も放送できるプラットフォームへとリニューアルした。本事業では同チャンネルを活用して、メディアリテラシー教育の推進を図った。

本事業の根幹は、高校生にローカルジャーナリズムの視点で番組制作と放送を体験してもらうこと。まず、千葉県高等学校文化連盟放送専門部会を通じて集まった各校の高校生に、「もし自分たちが地域課題をテーマに番組をつくったら」と題してディスカッションしてもらった。そして、参加校のうち1校に、実際に課題解決に向けて意見を発信する番組を制作してもらい、チバテレが実習指導と制作協力を行った。そのほかの各校からも一般投稿として番組を募集し、審査を経て実際に同チャンネルで放送した。放送局員や制作者がどのような視点で制作しているのかを学び、自ら手がけた番組が放送基準に則っているか確認できる機会を与え、メディアリテラシーの向上につなげた。

### 【実施意義】

現在、誰でも気軽に配信を行える環境に慣れ親しんでいる青少年は、リスク意識が希薄となっている。承認欲求から過激な行動を投稿する青少年は少なくない。結果として、ソーシャルメディアでの炎上事例が増加している。そこで、情報発信する際の基準を青少年が体験的に学ぶ機会を設けたいと本事業を企画した。特に公共性の高いテレビ放送の番組制作を体験することで、メディアリテラシーの観点から学校教育を補完できると考える。

また、ローカルジャーナリズムの視点から地域課題へ切り込み、放送を通じて意見の発信をすることで、生活する地域に対する認識が、「ただの衣食住の場」から「自らも参加している地域社会」へと変容し、民主主義とは何かを考えるきっかけになる。そして、発信された意見が家庭・学校・地域へと広がっていく……。こうして輪が広がり、課題解決へつながるという主体的で実践的な体験をすることは、主権者意識を養成するための有用な手段となり、青少年が社会人として生きるうえでも役立つ体験となろう。

なお、本事業は第2チャンネル活用法のプロトタイプとして、他局でも展開可能と考  
える。

## 事業の成果

### 【番組制作講習会の開催】

2022年8月16日、番組制作に興味のある高校生（14校・計52名）に対し、テレビ番組の制作講習会を行った。実際に制作を担当しているチバテレや制作会社の社員から、一部だけを切り取って伝えないこと、番組づくりには明確な基準が設けられていることなどを伝え、リアルな現場を感じてもらった。また、学校ごとに地域課題を考えてもらい、それにアプローチする番組の内容・構成をディスカッションしてもらった。



参加者からは、

- ・情報の裏取りの大切さがわかった
- ・「思い込み」やフェイクで誤ったことを放送する重大性を理解できた
- ・構成や放送基準など制作の基礎を知ることができた

——という声が寄せられ、ローカルジャーナリズムを体験する有意義な機会を提供できたと考えている。

### 【体験学習の開催】

講習会参加校の中から1校（千葉県立千葉西高校）を選抜し、課題解決に向けて意見を発信する番組制作を体験してもらい、チバテレが実習指導と制作協力を行い、「チバテレ ミライチャンネル」で放送した。制作は以下の日程で進めた。

- 2022年12月15日：「地域課題へアプローチする番組とは」をテーマに再ディスカッションし、番組構成・取材先を検討
- 2023年1月26日、2月15日：取材同行
- 3月14日、15日：番組制作のアドバイス
- 3月18日：放送
- 3月23日：放送した番組の振り返り

学生たちが問題として取り上げたのは、同校が「津波避難ビル」に指定され、ウェブサイト上に記載されている点だった。

- ・学校は海から近く、東日本大震災の津波の高さから考えると危険ではないか
- ・近隣住民は海側へ逃げることに對し不安があるのではないか
- ・何より通う生徒たちがこの事実を知っているのか

——など多くの疑問が浮かんだようだ。そこで取材先として、行政、地域の自治会、同校の教頭や生徒を選定し、それぞれにアポイントを取り、質問を投げかけた。取材先の検討にあたっては、一部の意見のみとならないよう行政側、地域側、住民の3者へインタビューできるように調整し、取材時にはそれぞれの意見をぶつけることで客観的な意見を聞き取れるようアドバイスした。



取材を進める中で新たに浮かんできたのが、「地域住民は同校を津波避難ビルとして認識しているが、逃げ込んだ時に、避難ビルであることを理解していない生徒たちは協力できるのか」という疑問だった。番組は最終的に同校の生徒に対し、災害時には地域と力を合わせようと呼びかける内容で締めくくられている。生徒たちが地域に着目し取材をしなければ、こうした呼びかけを行う使命感は育たなかっただろう。

実際の編集作業には、最も苦勞した様子だった。本編中、長尺でVTRを使用したいようだったが、同じ画を使い続けると視聴者が疲れてしまうことを伝えると、インサートとなるような映像を追加で撮影するなど、工夫を凝らして対応した。

制作した番組は、2023年3月18日の18時30分～45分に「チバテレ ミライチャンネル」にて無事に放送された。放送終了後、実際に制作を体験した生徒からは、

- ・情報を発信する責任の重さを感じた
- ・不特定多数に見られるという意味で、放送もSNSも本当は変わらないと思った
- ・達成感がすごかった。進路の選択肢が増えた

——という声が寄せられ、本事業の成果を改めて認識できた。

### 【自主投稿の募集】

講習会に参加した千葉県立千葉西高校以外の学校には、各校で制作した番組を「チバテレ ミライチャンネル」で放送する機会を提供した。校内や発表会ではなく、実際の地上波で放送するため考査を経ることとなり、映像を制作し伝える責任と放送基準を体験してもらい、メディアリテラシーの向上に寄与できた。放送した作品は以下のとおり。

- ・千葉県立鎌ヶ谷高校：「実る想い」
- ・千葉県立千葉西高校：「食べること＝」
- ・千葉県立東葛飾高校：「愛の呼びかけ放送中」
- ・千葉県立東金高校：「Remember 湯」
- ・千葉県立柏南高校：「魅力の人」
- ・千葉県立検見川高校：「bio hope」
- ・私立市原中央高校：「美味しさの裏側」
- ・千葉県立小金高校：「アメリカっぽくないんです！」
- ・私立流通経済大学附属柏高校：「星の架け橋」、「未来への言葉」

以 上